

「増補改訂版 北海道のサンショウウオ」の刊行

佐藤孝則

1987年3月、私は研究者仲間と『北海道のサンショウウオ』（B5版30頁）を出版しました。この小冊子は、北海道に分布するエゾサンショウウオとキタサンショウウオの生態や観察方法についての概要をまとめたものです。北海道に分布するサンショウウオを一般向けに紹介した本としては、本書が初めてのものでした。しかしこの小冊子を出版して既に四半世紀が経ちましたが、これに類する本は未だ発行されていません。しかもその間、サンショウウオの生息環境は一層悪化し、危機的状況に陥っているにもかかわらず、その現状すらほとんど紹介されることはありませんでした。同じ両生類でもカエルとは異なる絶滅パターンをもつサンショウウオに関しては、まさに今日こそ保護・保全対策を講じなければならない大きな節目だと考えます。

今回、増補改訂版として刊行した『北海道のサンショウウオたち』（A5版258頁）は、これら2種の生態や行動、保全、遺伝情報のほか、小中学生にもわかりやすいように図や写真を多用した普及啓発書として編集しました。また、行政における環境保全対策の重要な情報提供書として、あるいは環境アセスメントを実施するさいの調査・活用書として、さらには学校教育における自然観察あるいは環境教育の手引書として活用していただけるよう、章・節に分けてまとめました。加えて、本書を幅広く活用していただくため、北海道内の各学校、図書館、博物館など、主な教育関係機関へ寄贈し、また実際に屋外でも活用してもらうため、「フィールド・ガイド」「野外ハンドブック」の装丁で刊行しました。

本文は、「第1章 サンショウウオを観察しよう」「第2章 サンショウウオの仲間たち」「第3章 エゾサンショウウオの分布と生態」「第4章 キタサンショウウオの分布と生態」「第5章 『墜落わな』を用いた生態調査」「第6章 生息地の保全と評価の試み」「第7章 北海道に分布するサンショウウオ2種の進化と分化」の全7章29節で構成されています。そして第1章と第2章は小・中学生を対象とし、第3章と第4章は高校生・一般を対象とし、さらに第5章から第7章までは大学生・研究者を対象として編集しました。

本書の刊行によって、北海道に分布する2種のサンショウウオの生態、行動、

進化の詳細な研究が、一般に明らかになりました。とくに、世界で初めて開発された「墜落わな（ピットフォール・トラップ）」による調査法は、小型サンショウウオの調査には不可欠で有効であること、またこの調査法によって詳細な生態、行動などを解析できたこと、さらにミトコンドリア DNA の解析によってサンショウウオ 2 種の分岐時期や北海道への侵入時期が明らかにされたことです。従来、定説となっていたキタサンショウウオの侵入時期は、本書によって科学的に完全に覆りました。

以上のように、『北海道のサンショウウオたち』は、四半世紀ぶりに大幅に増補改訂されたエゾサンショウウオとキタサンショウウオに関するノウハウ本といえます。今後、若い研究者によるさらなる増補改訂版が出版されることを期待してやみません。

